

2

節

二人で共に生きる

家族や友人、周囲の人々との付き合いの中で、私たちは様々な経験や行動を共にし、考え方を豊かにしている。特に友人との付き合いは、共に成長を実感できることもあるだろう。また、多くの人との出会いの中から、やがて好きな人や、生涯を共に生きていきたいと思う人に巡り会うかもしれない。

結婚し、パートナーと共に生き、家庭を築くことについて考えてみよう。

パートナーシップ

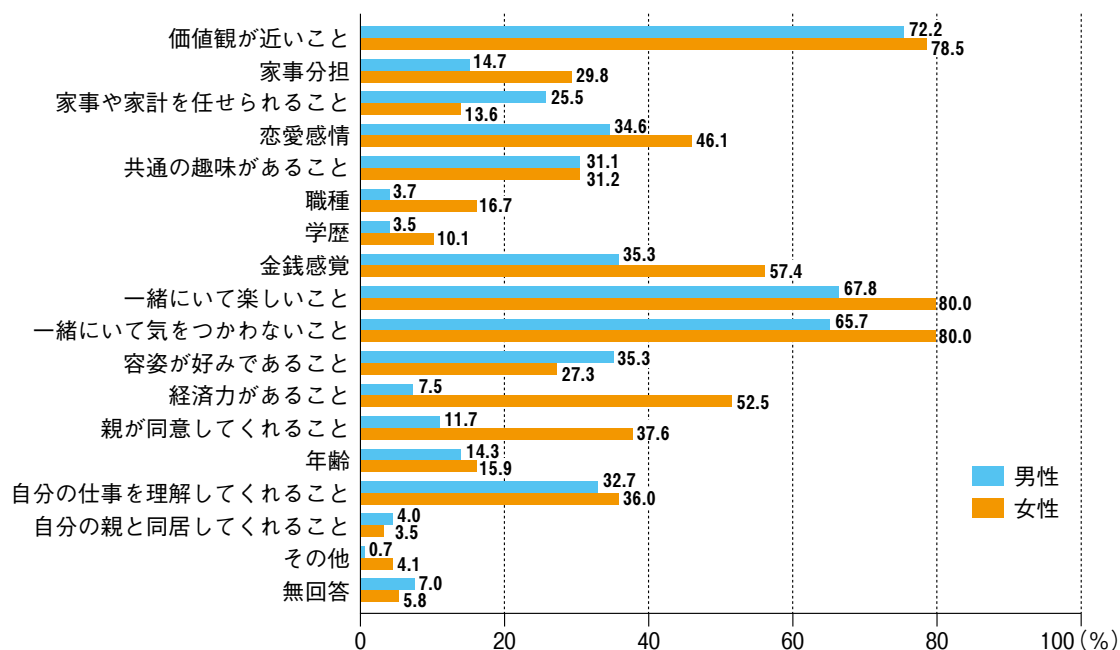
これまで異なる環境に育った二人が、結婚により夫婦として一緒に共同生活を始めると楽しいこともあるが、戸惑うこともたくさん起こる。「パートナーシップ」とは協力関係を意味する。相手をありのままに受け入れること、相手のネガティブな面とも向き合うこともパートナーシップの意味であろう。家庭における生活費や家事の分担、仕事のことやお互いの家族のことなど、二人で話し合い、互いに配慮しながら決めていかななくてはならない。このようにお互いを尊重しながら課題を解決する積み重ねが、パートナーシップをさらに強くするのである。

現代の晩婚化、非婚化の傾向、離婚率の上昇などを背景に、家族構成の在り方は多様化している。

結婚観について聞いた調査結果では、「できればした方が良い」が54.1%と最も高く、次いで「無理してしなくても良い」が29.3%となっている。(内閣府「結婚・家族形成に関する意識調査」報告書(平成26年度)より)

生命を育んだり、生活をしたりする基盤としての家族・家庭の意義を考えてみよう。

図1 結婚相手に求める条件(20代及び30代)



出典：内閣府「結婚・家族形成に関する意識調査」報告書(平成26年度)

ワーク

結婚についてあなたの考えを書いてみよう。

振り返り

お互いによりよく生きるために、パートナーに求めることはなんだろうか。ワークを通して気付いたこと、考えたことを書いてみよう。

COLUMN

デートDV

交際相手からの暴力（デートDV）には、殴る、蹴るなど身体に対する暴力だけではなく、交際相手に対し、自分の好きな服装や髪形を強要したり、メールの返信が遅いからといって怒鳴ったりするなど、相手の気持ちを

考えずに、自分の思い通りに支配したり束縛したりしようとする態度や行動も含まれる。

気付かないうちに被害者になったり加害者になったりする可能性がある。